令和８年度小平市立小平第七小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

・「書くこと」の正答率が、都平均より低いが、全国と比べると 0.4 ポイント高い。
・「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるか」の無回答率が東京都や全国と比べると、かなり高い。

課題

・思考力、判断力、表現力等の「読むこと」に関する問題で、無回答率が 23.5%であった。読んで理解することに時間がかかることから、さらに引用して、自分の考えが伝わるように書くことなどへも影響を与えていると考えられる。

学校で取り組む具体的な改善策

・週１時間設定している図書の時間を確実に実施したり、図書委員会を活用して、読書活動の啓発をしたりし、日頃からこどもたちが読書に慣れ親しむようにする。
・家庭学習において日記の課題を出したり、授業後の学習の振り返りを書く時間を設定して取り組ませたりし、書く時間を意図的に増やしていく。

【算数】

状況の分析

・算数全体の平均正答率 50%、平均正答数は８問（１６問中）で、昨年度と比べ、正答率が 10 ポイント低くなっている。
・「C　変化と関係」の正答率が一番低く、都平均と比べて、13 ポイントの差があった。

課題

・基礎的な計算も習得できているとは言えない状況である。
・データの活用や割合と比較量から基準量を求めることにも課題がある。しかし、百分率と割合の変換はおおむね理解している。

学校で取り組む具体的な改善策

・東京ベーシック・ドリルや授業開始時に行うプリント「計算クエスト」などで既習事項を反復して練習する時間を確保し、基礎・基本の習得を図る。
・倍や割合と比較量から基準量を求める学習では、二重数直線を自分の力でかいたり、簡単な数値を当てはめ、立式の方法を考えたりさせながら、正しく立式する力を身に付けるようにさせる。また、こどもが苦手な領域を保護者会などでも伝え、家庭の意識を高めていく。

【質問紙】　　状況の分析

・「将来の夢や目標をもっていますか」という問いに肯定的な回答をした児童が 91.5%で、全国や東京都の平均と比べて高い。
・様々な教科において、学習者用端末を活用して文章やプレゼンテーションを作成し、自分の考えや意見を分かりやすくまとめ、伝えることができていると実感している児童が多い。

課題

・普段１日あたりのスマートフォンやタブレットなどで SNS や動画視聴をどのくらいの時間しているかという問に対して、２時間以上の割合が 61.3%と非常に高い。
・学校の授業以外に、普段１日にどれくらいの時間勉強しますかという問に対して、１時間未満・全くしない児童が 33.9%とかなり多い。

学校で取り組む具体的な改善策

・家庭学習の習慣が身に付くように保護者会で周知したり、個別で連携を図ったりする。また、書くことに苦手意識がある児童に対して学習者用端末を使った課題を出したり、本人や家庭と話し合った上で配慮したりするなど、安心して取り組みやすい環境を整える。また、読書時間が短いことや、図書の時間や読書月間の取組なども保護者に紹介し、日常的に読書をする習慣を身に付けることができるようにしていく。
・スマートフォンや学習者用端末などで SNS や動画視聴をしている時間が長いという事実を家庭にも伝え、各家庭での SNS ルールづくりに生かしてもらう。